

今月の「未来へつなぐ」は、オンラインで活動をはじめた“あびらぼ”についての紹介です。
新しい学びの形が広がっています。

未来へつなぐ



あびらぼを進めていく3人の協力隊
鈴木(左)、松岡(右)はサポーター

あの「あびらぼ」がオンラインに!? 「おうち de あびらぼ」がスタート!

昨年度より安平町の新しい教育の一環として始まった教えない放課後教室「あびらぼ」。今年度の取り組みがいよいよスタートしました。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、現在、社会教育事業の実施が中止になっています。そんな中「地域おこし協力隊・学びサポート推進員」でもある復興ボラセンメンバー、河嶋愛基が手掛ける「あびらぼ」では、生徒と講師陣が接することなく、子どもたちに学びを提供できる取り組みを5月25日(月)からスタートしました。その取り組みとは、オンライン版のあびらぼ、名付けて「おうち de あびらぼ」です。



オンライン説明会時の様子

5月の中旬に2回、「おうち de あびらぼ」のオンライン説明会が開催され、町内の小学4～6年生が11名、中学1～3年生が10名の計21名の子どもたちが今年度のあびらぼに入会しました(途中でも随時受付中)。



オンライン説明会時の様子②

あびらぼのメインの授業スタイルは、「探究授業」と言われる「一つテーマを絞ってそのテーマについて深く掘り下げていく」というもの。事前の説明で使われていた紹介動画では、「ピカソ」について掘り下げていました。ピカソの絵は、描かれた年代によって、絵の雰囲気非常に大きく異なっています。なぜ雰囲気の異なる絵が描かれたのか。ピカソがどんな心の変化があって、現在世に出回っているような抽象的な絵を描くことになったのか。これについて生徒みんな考えていくということを行っていました。また、実際のプログラムではこの探究授業に加え、「スキル編」という、生徒が探究授業に興味を持った「やりたいことを実現させるために必要なスキルを

学ぶ時間」も取り入れていくとのこと。ちなみに、昨年度のあびらぼでは、アーティストさんなど、外部講師の方を招いて特別授業を行ったり、アフリカの子どもたちとオンラインで繋がってみたり、みんなでアイヌ料理を作ってみたり、1日北海道大学に潜入して、現役の北大生から模擬授業を受け、大学生気分を味わってみたり…と普通の塾や学校ではできないようなことをたくさん行ってきました。



あびらぼの授業風景

オンラインを活用して始まった「おうち de あびらぼ」ではどんな新しい体験ができるのか。未だ未知数ではありますが、面白い経験を積むことができることは間違いありません。安平町の新しい学びの取り組みにこれから注目していきましょう!

あびらぼとは?

安平町が行う地方創生推進事業のひとつ、学びサポート事業の「教えない放課後教室」です。

「なんでもない日常におもしろフィルターを。」というキャッチコピーのもと、「勉強」という枠にとらわれずに、どんな新しい世界観と出会い、自分自身の「軸」を育てる…そうした機会を、子どもたちと一緒に作り上げています。



記事提供
編集・校正

安平町復興ボランティアセンター
安平町役場総務課情報グループ

ENTRANCE

LINE@で
イベント情報お知らせ中!



(一社) 安平町復興ボランティアセンター

TEL : 070-3139-0374

MAIL : abira.fukkouborasen@gmail.com